

3人が建築系技能の基礎習得に励む

建築系技能研修を実施

沖建協主催による「建築躯体工事技能研修」が昨年12月から開校された。

同研修は、在職・休職に関わらず土木系建設技能者を対象に、建築系の技能研修を通して図面基礎や、鉄筋作業等の技術を学ぶことで多能工として雇用の安定を図ることを目的に、沖建協が沖縄県からの委託を受けて開催しているもので、第一回となる今回の研修では3人が建築の基礎の部分座学と実技の両面から学んだ。

12月1日には宜野湾市の建設会館で開校式が開催され、沖建協の小谷和幸常務理事が「昨今の建設業界が厳しい経営環境にある中、協会では県内業者の優先活用だけでなく、人材確保・育成にも力を入れている。今回の研修は短期間だが凝縮された内容。研修の6割は実技であり、受講者の皆さんは力を合わせて、技能習得に努力いただきたい」と挨拶した。

続いて、講師を務める玉城保氏と宮城一志氏が受講者に挨拶し、一回目の講習が始められ、建築の基礎の部分や墨出しなどの技術を学んだ。

今年に入ってから、那覇市の沖縄県職業能力開発協会



座学では建築の基礎を学んだ



墨出しの技術を体験する受講者



材料の切り出しを行う受講者ら



組み立てた型枠のチェックを行う

の敷地内で実際の型枠施工の実技を行い、部材の切り出しから組立、配筋までを作業しながら学んだ。

研修に参加した比嘉正明さんは「座学ではイメージがつかなかった部分が現場での作業でなるほどなあと感じた。切り出しから加工まで一連の流れを実作業することである程度の手ごたえを感じた」と充実した表情を見せた。

徳田吉豊さんは「図面の見方・書き方から作業。そして解体まで全部を体験できて良かった」と感想を述べ、名城満盛さんは「こういう研修は初めてで戸惑うこともあった。内容的には良い内容だと思う」と答えた。

実作業を指導した斉藤〇〇さんは「学科では分かった気でも、作業して初めて理解できるものも多い。まず、基本からしっかり教えることを意識した」と基本を重視した指導を振り返った。

沖建協では今後も建築系の技能者育成により雇用のミスマッチ解消と安定に向けて、同講習を継続していくとしている。

研修に関する問い合わせは沖建協(電話098-876-5211)まで。